



HOUSES OF THE HOLY

聖なる館

1973年3月28日発売
プロデューサー：ジミー・ペイジ
エンジニア：エディ・クレイマー

曲順	曲名
1	永遠の詩 THE SONG REMAINS THE SAME
2	レイン・ソング THE RAIN SONG
3	丘のおこうに OVER THE HILLS AND FAR AWAY
4	クランジ THE CRUNGE
5	ダンシング・デイズ DANCING DAYS
6	ディジャ・メイク・ハー D'YER MAK'ER
7	ノー・クォーター NO QUARTER
8	オーシャン THE OCEAN

『IV』を引っ提げたツアー終えるとバンドは1972年から新作の制作に入り、その後日本やアメリカ・ツアーをはさみながら断続的に制作を続けたが、ツアーでは『IV』同様、リリース前からこの新作の楽曲が披露されていた。内容的には『III』と『IV』に共通するサウンドを拡大したような試みとなっていて、ツェッペリンの持つハードな側面よりも、ソングライティングとアレンジ、そしてミュージシャンシップを追求した作品になっ

ていて、時勢を反映してファンクやレゲエの導入も試みている。また、ロバート・プラントの歌詞的世界も『IV』から引き続いて大きく花開いたところがとても印象的だ。

尺の長いツェッペリン的即興も含んだ大作「ノー・クォーター」などはライヴでの定番曲ともなり、ツェッペリンの代表曲の一つともなったが、特に「永遠の詩」と「レイン・ソング」のどこまでも繊細でありつつ、かつダイナミックな展開を見せる内容は感動的で、このアルバムにおける大きな達成の内実を標している。「高見展」

【回答者コメント】 それまでの作品にはない前衛的なアプローチが魅力。サウンド・クオリティの高さも。(Jimmy SAKURAI) ツェッペリンの多種多様な音楽性が濃い密度で凝縮されていると感じる。(西江健博) 複雑さとシンプルさのほどよいバランス。イギリスの田園の湿度、妖精や鬼の息づかいを感じます。(久保田祐子)